

ポブベっくのやさしい投信信託

第2回 投資信託のメリット その1

(1) 投資信託のメリット

投資信託のテキストや、参考書などを紐解くと、たいていの場合、投資信託のメリットとして 分散投資によるリスク軽減、

規模のメリット、 専門家による効率的な運用、の3つをあげているようです。しかし、日本国債に限定して投資するファンドで、『分散投資のメリット』があるのかというと、これは誰もが首を傾げるでしょう。そこで、ファンドの性格毎にそのメリットを簡単にまとめてみましょう。

国内の株式に投資する投資信託

(a) 過去から学ぶ

日本の株式は1990年以降、バブル崩壊とともに、大きく下落しました。1990年の最初には4万円近かった日経平均が、今では2万円弱。10年でほぼ半分になってしまったのです。「株式って本当に儲かるの？」そんな疑問を持つのも当然だと思います。そこで以下の表を見てください。

投資時期	年間上昇率	100万円の投資
5年前	3.3%	117
10年前	-5.3%	58
15年前	3.3%	162
20年前	5.6%	295
30年前	7.4%	841
40年前	7.7%	1,966

注1) 2000年2月末のデータを使用

注2) 再投資の効果を考慮して計算

この表は、過去に日経平均に投資していたとしたら、どれだけ投資した資金が増えたか(減ったか)を示す表です。例えば、5年前に日経平均に投資したら、年率3.3%で上昇し、2000年2月末には117万円になったことを示しています。10年前に100万円を投資した場合には、42万円の損失で58万円となってしまいました。しかし、20年前ならどうですか？20年前に100万円投資したとしたら、年率5.6%で上昇し、現在その

資金は295万円になっているのです。30年前に100万円を投資したとしたら841万円、そして40年前に投資したとしたら、なんと1,966万円にもなっているのです。長期投資として考えると、株式はとても有利な投資対象だということが分かるのではないでしょう。

(b) アメリカの経験からも学ぼう

アメリカの株式はバブルだと叫ぶ人たちも多くいます。確かに、下の表を見る限り5年前に投資した場合の投資成果は年率20%以上と高すぎるようにも思えます。

投資時期	年間上昇率	100万円の投資
5年前	20.4%	253
10年前	14.7%	395
15年前	14.8%	794
20年前	13.1%	1,174
30年前	8.9%	1,303
40年前	7.2%	1,603

注1) 2000年2月末のデータを使用

注2) 再投資の効果を考慮して計算

注3) 為替は考慮せず

しかしながら、30年前、40年前に投資した場合の投資成果を見てみると、7%~8%と、それでも十分に魅力的なリターンとなっていますね。アメリカの個人投資家は、学校で、株式への長期投資は十分に資産運用に効果があることを勉強しています。ですから、短期的に大きな損失を被ったとしても、長期では十分に大きなリターンが得られると信じて、株式投資信託への投資を続けているのです。